

準指導員検定合格までの奮戦記（こぶくぼ編）

情けないやら、恥ずかしいやらで、自分自身に『活』を入れるために、本当は帰りたかったのですが、乗り気でない ara さんも無理やり引っ張って、瀬女に行ったあの日から、1年・・・。

今年、合格しました。もちろん ara さんもです。長いようで、本当に長かった1年でした。

クラブの皆さんのご支援、ご協力、職場のご理解のおかげです。家族にももちろん感謝です。

思い起こせば、「制動・推進」も十分に理解せず、自分の思い込みだけで滑っていた去年。

ta 会長には毎週末のようにレッスンを受けながらも、本番では緊張を超え、真っ白になり、考える余裕もなく、まさにあつという間に終わってしまった去年の検定会でした。

その検定会から数日経った日、瀬女で tan さんにビデオを撮ってもらいながらの練習で、「木立ち（ニュートラルの前）をもっと意識して、ゆったりと滑ってみれば」のアドバイスがあり、なにげに滑ったら今までの感覚とは違うものを感じ、「その滑りなら OK よ」と言われ、気が楽になったのを今でも覚えています。

その後のクラブでの「楽しく滑ろう！」でも、「検定で、その滑りしてれば受かったのに！」と口ぐちに言われ、「今さらと・・・」と思いながら、何か重い日々を過ごしました。

そして、いよいよ今シーズン。

昨年とは違い、自分自身のことを第三者的に、冷静に考えられる（見れる）ことができ、完成度は別として、準指講習会での実技は理解でき、大変充実した講習会でありました。

検定会当日。

悪天候ではありましたが、検定員の後ろに陣取る当クラブの皆さんのいつもの大応援団！のおかげで、リラックスできました。

翌日の発表。

昨年の一一人一人の読み上げとは違い、閉会式後廊下に張り出しますとのコメントが。

講評が終わり、閉会。そして廊下へ。

ゼッケン番号「8」と自分の名前がありました。

昨年、再チャレンジの決意表明後、山敏さんから次の言葉を頂きました。

「あくまでも、ご自身のスキーの上達の通過点に今回の検定があるのであって、今年の自分の技術を来年は一段と高めるチャンスと捉えましょう。また不合格の試練は合格した人には体験できない、人間をひとまわり大きくしてくれる貴重な教えがたくさんあります。頑張っってスキーに取り組むことが、応援してくれた方への恩返しになります。決意表明ありがとうございます。」

山敏さんもある方から頂いた言葉だそうですが、実はこの文章を切り取り手帳に入れ、事あるごとに読み直しをした一年でした。これからも大切にします。

今回は、まだまだひとつの通過点に過ぎません。これからも滑り続けます。

今後ともよろしくお願いします。

最後に、皆さん本当にありがとうございました。